

山 紫 水 明



奉祝 天皇陛下御即位



第 1 3 8 号



第一三八号 目次

表紙

新会長挨拶

新執行部・監事挨拶

新役員挨拶

上皇・上皇后両陛下御入洛

定例総会懇親会報告

平成三十年活動報告

各委員会報告

近畿・中央報告

令和元年度新入会員紹介

各次長紹介・編集後記

28 26 18 10 8 7 6 5 4 3 1

就任のご挨拶

会長 生寫 紀之



「ありがとうございます！」

以前、路線バスを降車する際にも元気な声で聞こえてきました。この「ありがとうございます」という清々しく心温まる言葉は感謝の心から発せられたことは言うまでもない事です。ですが、同時に相手を尊敬する意味も含んでいます。

「感謝と尊敬」この二心を昨今どれくらいの方々が持ち合わせておられるでしょうか。教育の現場では道徳教育や情操教育が見直され少しずつ心の豊かさは取り戻しつつあります。しかし、未だ凄惨な事件は絶えません。心の荒廃を押し止め、日本国が育んできた豊かで美しい心に溢れた国を青年会の活動を通して少しでも取り戻す為、会員と共に邁進させて頂く所存です。

さて、本年は今上陛下御即位の嘉節にあたり各地で奉祝事業が行われています。当会も京都府神社庁を始め関係諸団体と連携協力させて頂き御即位奉祝事業を企画実施し、常に「国やすかれ、民やすかれ」と祈念される陛下の慈愛溢れる大御心に報いるべく事業を通して感謝の誠を捧げ、皇室敬慕の念を次代を担う若い世代を始め国民に広めていくと共に皇室の尊厳護持にも力を注いでいきたく存じます。

当会は先の大戦（大東亜戦争）終戦後、山紫水明の麗しい風景が戻りつつある昭和二十六年六月、平安神宮に於いて設立されました。

そして諸先輩方が並々ならぬ努力により日々紡いでこられた賜物により令和三年に創立七十周年の佳節の年を迎えます。諸先輩方に恥じぬよう七十周年を充実した年とし、また盛大に式典が挙行出来ますよう、御神縁によりこの期に集う会員皆と共に創立七十周年に相応しい記念事業を企画させて頂きます。

昨年の十一月に会長に推挙して頂いてから一年、そして今年七月の定例総会にて新体制が始まって四ヶ月。元来、頭（リーダー）を張る器を持ち合わせていない私は、これより二年間の会の運営に不安を感じつつ携らせて頂いていましたが、私の考えに理解と惜しみないお力添えを下される役員始め会員にそれも杞憂に終わろうとしています。これよりは役員始め会員が心を一にして青年神職らしく元気に情熱を持って活動に邁進させて頂き、冒頭で記しました「ありがとうございます」と純粋に言える世の中を少しでも構築していきたく思います。私には信条としている座右の銘があります。

「仁恕和敬（人々が広い思いやりの心を持って人の過ちを許しあい尊敬しあつて和する）」

この座右の銘と共に会員が一丸となって先人が紡いでこられた日本の良き伝統、そして、心も活動を通して今一度強固に紡いでいきたく世代に受け継いでいきたく思います。

浅知短才の身、至らない点多々見受けられる事と存じますが、会の更なる発展に邁進させて頂きますので関係各位には何卒ご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶とさせて頂きます。

新執行部・監事 挨拶



事務局長 有島昌延

(賀茂別雷神社)

この度、事務局長という大役を務めさせていただきます。何分不慣れな役でございますが、生寫會長のもと円滑な事務運営ができるよう、精一杯務めさせていただきますので、皆様のご指導、ご協力をお願いします。



副会長 進藤大長

(大石神社)

この度、副会長という大任を仰せつかりました。年号が平成から令和に代わり、新しい時代に突入したこの時、青年部ならではの新しい風を吹かせられるよう尽力して参ります。会員皆様の各活動へのご協力よろしくお願いたします。



副会長 白江秀宜

(北野天満宮)

歴史ある京都府神道副会長の大任を仰せつかる事となりました。経験豊富な皆さんの足を引っ張らないよう、微力ながら生寫會長を支え、本会の発展に努めさせていただきます。



副会長 田中博志

(石清水八幡宮)

この度、副会長の任を仰せつかりました。田中博志と申します。もとより浅学非才の身ではありますが、生寫會長を支え、歴史ある京都府神道青年会の更なる発展の為に全力を尽くさせていただきますので、二年間宜しくお願ひ申し上げます。



監事 六人部是充

(向日神社)

前期は会長として多くの方々にお力を戴きました。今回お返しができるよう、今期は監事として有意義な会務運営の為に微力ではございますが、その任を精一杯務めさせていただきます。ご協力宜しくお願ひいたします。



監事 高田真之介

(護王神社)

新役員と共に生寫會長支え、誰もが楽しめる神道青年会となるよう邁進していきたいと思っております。



会計局長 有持圭祐

(長岡天満宮)

この度、御代替りと三つのお目出度い佳節の年に、若輩の身ながら会計局長という大役を務めさせていただきました。大変恐縮しております。今年度は例年の事業に加え、御大典奉祝事業を始め様々な計画がなされておりますが、財布の紐は固く当会を支えてまいります。と思っております。何分不慣れで行き届かない事と存じますが、会計局としての責務を精一杯努めて参りますので、ご指導・ご協力をお願いします。

新役員 挨拶



広報委員長 鈴木 雄哉

(伏見稲荷大社)

この度、広報委員長という大役を仰せつかり恐縮しております。微力ながら、会員の皆様と協力して広報活動に尽力させていただきますと存じますので、どうか、二年間よろしくお願いいたします。



事業委員長 東條 貴史

(八坂神社)

この度、事業委員長を務めさせていただきましたことになりました。二年間という短い間ではございますが、役員並会員の皆様にご迷惑をかけない様、微力ながら誠意努めたいと存じます。宜しくお願い致します。



教化委員長 守分 仁成

(伏見稲荷大社)

この度、教化委員長を務めさせていただきますこととなりまして。至らぬ点も多々あるかと思いますが、精一杯努力してまいりますので宜しくお願いいたします。



組織委員長 宮城 登志夫

(祝園神社)

今までのいち会員としての活動から委員長として各事業に臨むにあたり不安はありますが、委員の皆様と共に頑張る所存でございますので宜しくお願い致します。洛声が会員同士の気持ちの架け橋になれるよう努めてまいります。



親睦委員長 北川 真喜子

(御嶽教末廣教会)

この度、親睦委員長を務めさせて頂くこととなりました。皆が親睦を図れる事業を、年齢の垣根を越え、皆様の親睦の橋渡しとなる親睦委員会を作りたい！そんな事業が一つでも開催出来るよう、全身全霊をかけ務めて参ります。さあ、皆さん！今こそ心を解き放ち、一緒に楽しみましょう！！何卒二年間宜しくお願い申し上げます。



渉外委員長 浄見 僚

(石清水八幡宮)

本年七月五日、京都府神道青年会総会において渉外委員長に選任されました。令和という新しい御代における最初の京都府神道青年会の活動が始まります。本渉外委員会は他団体との交流の窓口となる委員会です。委員会運営には円滑な進行に務めつつ、多くの委員から、会員から発言が得られるよう配慮していきたく存じますので、会員各位の積極的な参加を切にお願い申し上げます。

上皇・上皇后両陛下御入洛

令和元年六月十一日から十三日迄の三日間上皇上皇后両陛下におかせられましたは孝明天皇陵（後月輪東山陵）、明治天皇陵（伏見桃山陵）を讓位奉告の為に拝礼される「親謁の儀」に臨まれる為、ご入洛あそばされた。

このたびのご入洛は讓位後初めての地方行幸啓であり、また上皇旗をためかせた御料車が京都御所（京都御苑）また、京都市内を走行するのも初めての事であり御奉送迎させていただいた一人として感慨深いものであった。



ご入洛初日の十一日は日本会議会員を始め、氏子青年連合会会員、当会会員（七名参加）にて二班に分かれ、大宮御所前、堺町御門付近にて御奉迎させて頂き、御奉迎に参集された方々に国旗小旗を配布させて頂いた。配布している頃は小雨が降り時折、雷鳴も轟く空模様であったが、ご到着三分前の警察車両が堺町御門を進んでくる頃、雨は上がり眩いばかりの日差しが戻ってきていた。ご到着一分前の警察車両が目の前を通り過ぎ少し辺りが静寂に包ま

れた頃、それはお出ましの太鼓の如く雷鳴が二回轟いた。その直後丸太町通りから進んできた

御車列は堺町御門を進み上皇旗をためかせた御料車が御奉迎に参集した方々の前を通る頃、国旗小旗は一層力強く打ち振られていた。

十三日の御奉送は晴天の中、日本会議会員を始め氏子青年連合会会員、当会会員（三名参加）にてご奉仕させて頂き、十一日と同様に大宮御所前、堺町御門付近にて御奉送に参加された方々に国旗小旗を配布させて頂いた。時刻になり御料車が参集された方々の前を通過する時には国旗小旗はこの日も力強く打ち振られ晴天の青と国旗小旗の日の丸が麗しく調和していた。両日共に京都御所（京都御苑）内にて上皇上皇后両陛下の御奉送迎をさせて頂いた事は光栄であり、また幸福を感じている所である。

（大將軍八神社生寫紀之）



定例総会・懇親会報告

令和元年七月五日、午後六時より、ハイアットリージェンシー京都にて、令和元年度定例総会が開催された。

高田副会長より開会の辞が述べられ、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、物故者に対し黙祷、六人部会長挨拶の後、山下博士会員が議長に選出され議事に入った。

まず、第一号・平成三十年年度活動報告、第二号・平成三十年年度決算報告、第三号・

監査報告が行われ一括で審議され承認された。次に第四号・役員改選案が審議に諮られ生寫新会長と高田新監事と六人部新監事以外の新役員が選出された。第五号・令和元年度活動方針案、第六号令和元年度予算案は一括審議の後、承認された。



定例総会に引き続き、懇親会が開催された。御来賓、協賛業者、OB会員・新OB会員の皆様と、現役会員八十七名、併せて百三十二名が出席した。先ず、開会に先立ちヤチマタ基金の贈呈式が行われ、生寫会長から



京都府神社庁 副庁長 鳥居肇様に目録が手渡され、当事業の成果が報告された。

次に白江副会長より開会の辞が述べられ、生寫会長の挨拶が行われた。続いて、御来賓の方々を紹介させて頂き、代表して京都府神社庁 副庁長 鳥居肇様より御祝辞を頂戴した。その後、京都府氏子青年連合会 理事 上田幸寛様による乾杯の発声によって、懇親会がスタートした。

懇親会では、新入会員の紹介で十六名の新人が自己紹介を行った。続いて親睦委員による余興が行われ、各テーブルごとに選出された代表者によって千本つり大会が行われた。

最後にOB中田幹男先輩による万歳三唱が行われ、閉会の辞を進藤副会長が述べ、懇親会は盛況の内に終了した。

(伏見稻荷大社 上島亮平)



平成三十年度 京都府神道青年会活動報告書

自 平成三十年七月一日 至 令和元年六月三十日

年月日	内容	人数	場所
七月 一日	第五十回京都府氏子青年連合会定期年次大会出席 監査会開催	一名 四名	石清水八幡宮 向日神社
七月 二日	定例総会直前役員会開催	一九名	京都センチュリーホテル
七月 五日	平成三十年度定例総会開催	八八名	京都センチュリーホテル
七月 五日	同 懇親会開催(総勢三四四名)	八六名	京都センチュリーホテル
七月 五日	近畿地区「視・鎮魂煉成研修会」参加	三名	春日大社
七月 七日	近畿地区 第一回役員会出席	二名	京都府神社会館
七月 二〇日	京都府神社庁 関係団体代表者懇話会出席	九名	石清水八幡宮
七月 二二日	第一回執行部会開催	六本木 樓外樓	キャンパスラザ京都
七月 二二日	第一回役員会開催	八名	神宮他
七月 二三日	京都府神社庁「日本文化セミナー」参加	五名	株式会社 京鐘
七月 二三日	京都府神社庁「七五三スタンプ写真撮影」	三名	京ほのか三条木屋町店
七月 二四日	事業委員会「七五三スタンプ写真撮影」	二名	京都府立
七月 二七日	野球部納涼会・優勝祝賀会(総勢四〇名)	二名	京都国際学院
七月 二九日	神青協「平成三十年度夏期セミナー」参加	五名	喜むつ
七月 三〇日	ヤマト広域キャラバン隊出席	五名	伏見稲荷大社 参集殿
八月 二日	広報委員会 第一回委員会開催	四名	長岡天満宮
八月 二日	教化委員会 第一回委員会開催	三名	長岡天満宮
八月 五日	組織委員会 第一回委員会開催	七名	大石神社
八月 五日	組織委員会 機関紙「洛声」第一九号発行	八名	笑い屋
八月 八日	教化委員会主催「鎮守の杜お祭り体験開催」(総勢八〇名)	四名	向日神社
八月 一〇日	親睦委員会 第一回委員会開催	一〇名	大石神社
八月 一〇日	事業委員会 第一回委員会開催	七名	向日神社
八月 一〇日	第一回執行部会開催	四名	向日神社
八月 一〇日	第一回役員会開催	一名	京都府神社会館
八月 一八日	ヤマトキャラバン隊巡回 実務者研修会	五名	京都府神社会館
八月 二〇日	京都府神社庁主催「第四七回交通慰霊祭助勢」	二名	みやつ歴史の館
八月 二二日	事業委員会「七五三スタンプ発行及び発送作業」	七名	護王神社
八月 二六日	近畿地区 第一回役員会出席	三名	THE KASHIHARA
八月 二六日	近畿地区 第一回連絡会出席	七名	THE KASHIHARA
八月 二七日	京都府神社庁・神道青年会主催 「神道行法錬成研修会」参加	一〇名	賀茂別雷神社
八月 二九日	神宮大厩旗布始め奉告祭参列	一名	京都府神社会館
八月 二九日	第四四回神職大会出席	一〇名	京都フライントホテル
八月 二九日	第三回役員会開催	一六名	大将軍八神社
十月 三日	渉外委員会 第一回委員会開催	五名	賀茂別雷神社
十月 四日	渉外委員会主催「皇宮関係施設清掃奉仕」 ※兼近畿地区事業(総勢二五名)	一六名	修学院離宮 小テール平安の森京都
十月 四日	組織委員会 第二回委員会開催	五名	まんざら亭烏丸仏光寺
十月 四日	親睦委員会 第二回委員会開催	四名	まんざら亭烏丸仏光寺
十月 四日	親睦委員会主催 「親睦トジボール大会開催(総勢四〇名)」	二四名	立正佼成会体育館
十月 二〇日	執行部主催「国防について学ぶ研修会」開催	一八名	陸上自衛隊 大久保駐屯地
十月 二五日	日本会議・京都総会	五名	リーガロイヤルホテル京都
十月 二二日	近畿地区「第二四回全国戦歿学徒追悼祭」 奉仕及び参列	二名	若人の広場公園
十月 二八日	京都府神社庁「秋の収穫り収穫祭」参加	一名	大原神社
十月 二八日	教化委員会 第二回委員会開催	五名	伏見稲荷大社
十月 三〇日	野球部OB交流戦(総勢 九名)	二名	皇子山総合運動公園
十一月 七日	第三回執行部会開催	一〇名	石清水八幡宮
十一月 九日	事業委員会 平成三十一年カレンダー発行	一七名	伏見稲荷大社
十一月 一日	広報委員会 第二回委員会開催	九名	塚田農場 三条大橋店
十一月 四日	教化委員会主催「七五三の集い」開催(総勢二十七名)	九名	大原神社
十一月 四日	渉外委員会 第二回委員会開催	六名	賀茂別雷神社社務所
十一月 四日	京都府氏子青年連合会との役員合同忘年会出席	一名	かんこ三条本店
十一月 五日	神道青年全国協議会臨時総会	八名	平安神宮
十一月 二日	神道青年全国協議会臨時総会	三名	神社本庁
十一月 二日	京都府戦没英霊追悼慰霊祭奉仕及び参列	五名	京都カールテンパレス
十一月 二日	親睦委員会 第三回委員会開催	四名	平安神宮
十一月 二日	組織委員会 第三回委員会開催	三名	長岡天満宮社務所
十一月 三日	組織委員会 機関紙「洛声」第二〇号発行	三名	長岡天満宮社務所
十一月 三日	野球部 忘年会開催(総勢九名)	四名	なか川
十一月 四日	近畿地区 第三回役員会出席	三名	ホテル日航奈良
十一月 四日	近畿地区 臨時総会「第一回連絡会出席」	九名	ホテル日航奈良
十一月 六日	組織委員会・親睦委員会主催 「OB懇親会」開催(総勢六二名)	四七名	かがり火
十一月 二〇日	神道政治連盟京都府本部 「沖繩京都の塔慰霊参拝団」参加	一〇名	沖繩県
十一月 四日	広報委員会 「広報誌「山梨水明」」第二二六号 発送作業	五名	北野天満宮
十一月 四日	広報委員会 広報誌「山梨水明」第二二六号発行	三名	京都府神社庁
十一月 七日	京都府神社庁 関係団体懇話会出席	一七名	南禅寺 順正
十一月 七日	第五回役員会・忘年会開催	二名	新都ホテル
十一月 二三日	天長節奉祝 日本会議・京都設立二十周年 記念式典出席	四名	大石神社
十一月 二二日	親睦委員会 第四回委員会開催	一六名	向日神社

年月日	内容	人数	場所
一月 二四日	京都府神社庁平成三十一年新年神職総会 及び助成金交付式出席	三名	京都府神社庁
二六日	天皇陛下御即位三十年 感謝の誠を捧げる京都府民の集い参加	二〇名	京都国際会議場
二七日	近畿地区「国旗掲揚推進」二・七 御堂筋ハレード参加	一名	坐摩神社・御堂筋
二月 三日	京都府神社庁「交通安全推進運動 ヤチマタ募金活動」参加	四名	吉田神社
五日	第四回執行部会開催	九名	石清水八幡宮
八日	第七回役員会開催	一六名	リーガロイヤルホテル京都
八日	平成二十年臨時総会 新年会開催(総勢二四〇名)	七名	リーガロイヤルホテル京都
九日	広報委員会 第二回委員会開催	七名	おやじの蔵
一一日	日本会議・京都「建国記念の日 奉祝京都式典・講演会」出席	二名	京都府社会館
一四日	渉外委員会 第二回委員会開催	九名	ガブリチキン河原町三条
二〇日	広報委員会主催研修会 「身体のメンテナンスの重要性」開催	四名	藤森神社
二一〜二三日	京都府神社庁「お伊勢さん初まり」参加	二名	伊勢市
二五日	教化委員会 第二回委員会開催	四名	京都綾小路 満月の花
二六日	京都府神社庁学生対象 「神職さんへ」く伊勢参宮参加	五名	伊勢市
三月 二日	京都府氏子青年連合会設立五〇周年記念式典出席	五名	京都ホテルオークラ
五日	第五回執行部会開催	一名	向日神社
五日	組織委員会 第四回委員会開催	四名	長岡天満宮
五日	組織委員会 機関誌「洛声」第二二号発行	四名	長岡天満宮
五日	組織委員会 機関誌「洛声」第二二号発行	四名	長岡天満宮
八日	第八回役員会開催	一六名	大將軍八神社
一〇日	長岡天満宮青年会設立五〇周年記念式典出席	二名	ホテル京都エミナース
一一日	渉外委員会主催 西陣連合青年会との 交流会開催(総勢一五五名)	四名	まんざら亭仏光寺
十三〜十四日	神青協「平成三十年中央研修会」参加	三名	茨城県
一九日	近畿地区 第四回役員会出席	三名	THE KASHIHARA
一九日	近畿地区 第二回連絡会出席	八名	THE KASHIHARA
二〇日	近畿地区 地区研修会出席	八名	興福寺・西大寺
二〇日	天皇皇后両陛下御入浴御奉送迎	七名	京都駅・大宮御所
二五日	渉外委員会「ヤチマタ募金活動」開催 (四〇、一七四円)	七名	北野天満宮
二六日	天皇皇后両陛下御入浴御奉送迎	三名	京都駅・大宮御所
二六日	近畿地区 親睦ゴルフコンペ参加	一名	瀬田ゴルフコース
二八日	天皇皇后両陛下御入浴御奉送迎	一〇名	京都駅・大宮御所
二七日	京都府神社総代会総会	二名	ホテルグランヴィア京都
二九日	神政連京都府本部「靖國神社慰霊参拝」参加	五名	靖國神社
八日	親睦委員会 第五回委員会開催	八名	大石神社
一〇日	野球部総会(総勢一〇〇名)	一八名	鳥せじ
四月 一日	第九回役員会開催	一六名	向日神社
七日	神青協創立七十周年記念大会参加	五名	明治記念館
八日	神青協「第七十二回定例総会」出席	三名	神社本庁
八日	全国会長会	一名	まーさん堂
八日	組織委員会 第五回委員会開催	六名	まーさん堂
二三日	組織委員会主催研修会「再磨きは生き方磨き 〜全身全霊で整える〜」開催	一九名	護王神社会館
五月 三日	日本会議京都憲法フォーラム 京都府民の集い参加	二名	京都府社会館
七日	近畿地区 第五回役員会(新田)出席	六名	京都府社会館
九日	渉外委員会 第四回委員会開催	四名	賀茂別雷神社
二〇日	近畿地区 野球大会雨天の為ホウリウグ大会参加	七名	奈良県橿原市内
二二日	第一〇回役員会開催	一七名	護王神社
二六日	京都府神社庁「春の御田植祭体験ツアー」参加	一名	大原神社
二八日	近畿地区 新旧合同事業委員会出席	二名	ホテルモントレ・グラスミア大阪
二八日	近畿地区 第一回事業委員会出席	二名	トラウム
五月 五日	第六回執行部会開催	九名	石清水八幡宮
六日	親睦委員会主催「親睦ホウリウグ大会」開催(総勢七二名)	四二名	ラウンドワン河原町店
八日	京都府神社庁「第二回鎮守の杜フエスタ」参加	一〇名	北野天満宮
九日	渉外委員会 第五回委員会開催	五名	賀茂別雷神社社務所
一〇日	近畿地区 第六回役員会(新田)出席	九名	奈良ロイヤルホテル
一〇日	近畿地区 定例総会出席	七名	奈良ロイヤルホテル
一〇日	設立二十五周年記念大会出席	九名	奈良ロイヤルホテル
一日	上皇上皇后両陛下御入浴御奉送迎	四名	大宮御所
三日	事業委員会 第二回委員会開催	三名	銀座ライオン 四条烏丸店
四日	上皇上皇后両陛下御入浴御奉送迎	三名	大宮御所
四日	渉外委員会主催研修会 「部教青年部との交流会」開催(総勢二四〇名)	一三名	吉田神社 がんこ高瀬川一条苑
五日	広報委員会 第四回委員会開催	七名	日本酒店酒屋 料
六日	教化委員会主催 一般教化促進事業 「学生対象神職さんへ行く」神社探訪開催(総勢二四〇名)	九名	北野天満宮
六日	教化委員会主催 一般教化促進事業	五名	市場小路 寺町店
六日	組織委員会 機関誌「洛声」第二二号発行	五名	長岡天満宮
八日	組織委員会 機関誌「洛声」第二二号発行	五名	長岡天満宮
八日	渉外委員会主催「チャリティバザー」準備作業	一〇名	藤森神社
八日	渉外委員会主催「チャリティバザー」開催 (二八五、七〇〇円)	九名	藤森神社
二四日	第二回役員会開催	二三名	向日神社
三〇日	組織委員会「令和元年度会費名簿」作製(七月五日発行)	二三名	向日神社
三〇日	広報委員会 広報誌「山紫水明」第三十七号発行	二三名	向日神社

委員会報告

組織委員会

『洛声』第二一二三号特別号発行

組織委員会では日頃の青年会の活動や近況を報告する

『洛声』第二一二三号を発行いたしました。

皆様の声を機関紙という形にすることで会員間の情報共有や親睦を図り、青年会の組織力強化に繋がる紙面づくりに取り組んでまいります。

些細なことでも構いませんので是非とも組織委員まで情報の提供をよろしく願います。

(祝園神社宮城登志夫)



教化委員会

神社探訪

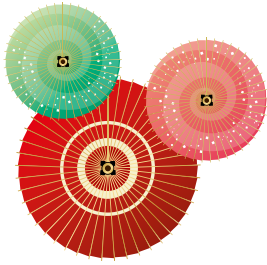


去る令和元年六月十六日(日)、北野天満宮に於いて教化委員会主催の一般教化促進事業である神社探訪が行われた。

この事業は京都府内の学生を対象としたものであり、お参りを通して神社に親しみをもち、参拝する習慣を持つていただくことを目的とし、今回で四回目の開催となる。当日は小雨の降る中ではあったが十五名の学生の参加があり、北野天満宮 権禰宜 白江委員の案内のもと、本殿での正式参拝、境内案内、青もみじ見学・宝物館拝観と終始和やかな雰囲気のもと白江委員の説明に耳を傾けている様子であった。

質疑応答の時間では、ご祭神についての質問や我々神職の日常の仕事について等の質問から、周辺のお店についてや恋愛について等幅広い質問があった。

参加学生にとっては普段出来ない本殿での正式参拝や神職による境内案内・神職へ直接質問できるなど貴重な体験を通し、神社や神



職をより身近に感じることが出来たのではないだろうか。

(伏見稻荷大社 中井浩志)

鎮守の杜 お祭り体験

九月七日教化委員会主催による

「鎮守の杜 お祭り体験」が今宮神社に於いて開催された。

当日は見事な快晴で地元の子供達約百名、保護者の方も合わせると約百七十名近くが参加した。

当初想定していた二倍以上の子供達が来たことに参加した会員一同驚いたが、大勢の子供達に神社について知ってもらえることは、やりがいがあるというものである。

手水の後、本殿にて正式参拝を行なった。

子供達は、普段は入らない拝所へ入ると物珍しそうに辺りを見渡ししていたが、生寫会長の先導でしっかりと参拝をすることができた。

その後は、絵馬堂に設けられた屋台にて、スーパースポーツ、射的等で夢中になって遊び、お





祭りの雰囲気を楽しんでいた。

最後に守分教化委員長による
バルーンアートが披露された。

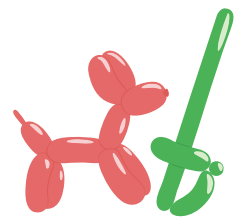
リズムに乗って形作られていく
バルーン作品に子供達は大喜び
であった。

二時間という短い時間ではあつ
たが、神社で楽しい時間を過ごす
子供達を見ていると充実感が感
じられた。

このお祭り体験が子供達にとつ
て良い思い出となり、少しでも神社にお参りをするきっかけになつて
ほしいと思う。

最後に、今宮神社様を始め、お忙しい中参加してくださった会員の
皆様に厚く御礼申し上げます。

(伏見稻荷大社 工藤 倭)



教化委員会主催研修会

去る十月四日、平安神宮記念殿ホールにおいて、教化委員会主催の研修会が開催された。

講師として同志社女子大学 生活科学部人間生活学科 准教授 麻生美希先生をお迎えし、「まちづくりの視点から考える神社と観光」と題した講演を賜り、約二十名が参加した。

先生は都市計画を専門とし、日本各地の文化的な景観の保全と観光について研究されている。

研修会では、まず「まちづくり」と「観光」の違いについて説明がなされた。

「まちづくり」とは、住民生活の視点から考えた、地域社会を基盤とする地域環境の維持・向上運動であり、「観光」とは、来訪者の視点から考えた、資源としての地域環境の活用をベースとした地域経済の推進活動である。

そして、「まちづくり」と「観光」の融合とは、地域環境の活用をベースとし、地域環境の維持・向上を目指すことであり、そのモデルケースとして岐阜県白川村、北海道美瑛町、山口県萩市等の紹介がなされた。それぞれに特色があり、考え方も異なる



ため、取り組んでいる活動も多種多様であった。

研修会の終わりに、「まちづくり」において大切なことは

- ・本来は誰のためのものか？
- ・本来の価値は何か？
- ・誰が主体になるべきか？

を考えることであると先生は述べられた。

神社は古来より、地域コミュニティの中心として重要な役割を担ってきた。すなわち、「まちづくり」の中心を担ってきたとも言える。

昨今、その神社を取り巻く環境は目まぐるしく変化している。平成三十年の訪日外国人は三、二九万人を数え、その多くが京都の神社を訪れている。喜ばしいことではあるが、観光客の急増により、神社の尊厳が失われてしまう恐れもある。

またオーバーツーリズム(観光公害)と言う言葉を耳にする機会も増えた。

方や、地方には少子高齢化による氏子の減少に歯止めがかからず、存続が難しい神社もある。

今回の研修会を通して、参加した会員は各々の奉務神社がおかれた現状を見つめ直し、「まちづくり」の視点からこれからの神社の在り方を考える良い機会になったのではないだろうか。

(伏見稻荷大社 黒木章弘)



事業委員会

八月十四日、事業委員会主催による恒例となった七五三ポスターの撮影が行われた。今年のモデルは当会会員のお子様、黒木翔真くん、田中文乃ちゃん、丸茂稔知くん、高田恵麻ちゃんに務めていただいた。

当日、子供等は緊張気味であったが、時間が経つにつれ笑顔が見えるようになり、元気がいっぱい撮影に応じ、和気あいあいとした雰囲気にて無事に撮影を終了することが出来た。

本年ご担当いただいたブライダルハウス・オエ様、高見株式会社様、株式会社京鐘様の格別の御配慮によりこのポスターが作製出来ております。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

(八坂神社 福本翔一郎)



渉外委員会

御嶽教青年部との交流会

去る六月十四日(金)午後四時より、渉外委員会の担当にて御嶽教青年部との合同研修会・懇親会が開催され、梅雨の合間の曇り空の下、六人部会長を始め九名の会員が参加した。



二年に一度の交流会で、今回は吉田神社の正式参拝と吉田神道についての研修会であった。先ず、正式参拝。次に吉田神社 権宮司 高野様を講師にお迎えして、大元宮を中心に境内をご案内頂き、参集所にて「吉田神道について」の研修会を行った。

吉田神社を後にして懇親会場であるがんこ高瀬川二条苑へ移動。懇親会を開催した。

吉田神社 禰宜 室川様の乾杯の発声により懇親会が始まり、二年ぶりの旧交を温めた。

(賀茂別雷神神社 有島昌延)

チャリティバザー



開店準備のため、会員一同が提供を受けた品を拝殿へ搬出、陳列している時から開店を今か今かと待ち続けている方は多く、品物を予約する方もおられるほどであった。

十時の開店と同時に待ちわびた方々が拝殿に詰めかけ、手に取ってじっくりと品物を吟味していた。

委員長を始め会員一人一人が、バザーの収益金が京都府を通じて交通安全推進運動に充てられる事を来られた方々に呼びかけ、この事業の趣旨を理解をしていただけに努めていた。

全体を通して、今年も終始和やかな雰囲気の中、盛況の内にバ



去る六月十九日、藤森神社にて京都府神道青年会渉外委員会主催チャリティバザーが開催された。当日は『紫陽花まつり』が催されており、平日にも関わらず、多くの参加者がいる中でのバザー開催となった。

ザーを収めることが出来た。

普段の社頭とは異なる来場者との対応をすることから、参加者にとって良い経験になったのではないかと思う。

(石清水八幡宮 梶貴嗣)



親睦委員会

ボウリング大会

最高気温三十三度を記録した六月六日、ラウンドワン京都河原町店にて、毎年恒例のボウリング大会が親睦委員会主催で開催された。

今年も総勢七十一名の若き会員達が集い、技を競い合い互いの親睦を深めた。

まず親睦委員の進藤委員長のルール説明の後、六人部会長の始球式が始まる。昨年優勝者の気負いかお約束なのか金色の始球式



専用ボールがすっぽ抜けて宙を舞うが、二度目の投球にて無事に始球式を終え大きな拍手の下ボウリング大会がはじまった。カコンカコンと各所からピンとボールのぶつかり合う小気味良い音を響かせながらゲームは進んでいき、二ゲームの戦いを終えた会員達は懇親会の会場へ移っていった。ラウンドワン向かいの会場では、生寫紀之



盛り上がり、互いの絆を深めていった。

宴もたけなわ、皆それぞれに打ち解けあつた頃、待ちに待った表彰式が始まった。順位が発表され、進藤委員長のセンス輝く豪華景品が会員達に手渡されていく。今年も開催日に因んで六に纏わる景品となっており、会員達はその大盤振る舞いに驚き、喜色満面に受け取っていた。そして、優勝は、

男子 林大道（石清水八幡宮）

女子 一瀬真由（平安神宮）

勝利をもぎ取った二人には特別豪華な景品とトロフィーが渡され、林会員の熱き想いのこもった挨拶の後、大きな拍手をもって盛大にその健闘が讃えられた。ここで料進藤委員長の計らいで、この日に誕生日を迎えられた六人部会長に素敵なサプライズプレゼントが贈られ、会長の素敵な人柄も合わせて大いに讃えられた。



副会長の乾杯の挨拶で懇親会がスタートした。互いの健闘を讃え合い、また普段あまり人に分かつてもらい難い我々の社務での悩みを打ち明け、同志となった会員達は大いに

最後は生寫和顕副会長による閉会の挨拶の後、会長の今期最後の「六人部締め」にて、大盛況であった親睦ボウリング大会はお開きとなった。

(城南宮山下博士)



親睦ビアパーティー

親睦行事(親睦委員会主催)が令和元年九月三日(火)に、レストラン菊水にて屋上親睦ビアパーティーで開催された。神青会員並びに巫女、事務員と合わせて社務多忙な中、総勢六十名という大人数の参加であった。

受付時に席札を引き、各々「今やりたいこと」を記入した名札をつけ、着席後、北川親睦委員長の司会、また生寫会長の乾杯にてスタート。親睦

委員の企画の目玉である「今やりたいこと」を記入したことで、各々のテーブルでスタート前から話の盛り上がりがあった。会場が屋上ということもあり、外にいるような開放的な空間ではあったが、当日は日が暮れても会場の雰囲気のように気温が高く、外でバーベキューをやっているような感じの体感でもあった。

各テーブルで肉・野菜を調理しながら、暑さで飲み物も進み、久々に会えた友人や初めてお会いする人とも交流を深めることができ、積極的に会話をしている



加者全員の笑顔が溢れている様子であった。生憎、途中から降雨に見舞われ、小雨の中でのパーティーになってはしまったが、雨を吹き飛ばすくらいの活気の中、あつという間に時間が過ぎ、室川親睦副委員長による挨拶で閉会となった。

締め挨拶の中にもあったが、まず東京オリンピックに向け、京都もたくさんの方々をお迎えする年になる為、京都府神道青年会が一丸となり、お迎えをする体制を考えて、行動を起こし、より一層、京都の神社界が盛り上がりされるよう、このような親睦会をきっかけに横との繋がりを大事にし、まずは日々の社頭奉仕から励んでいきたいと思う有意義な会であった。



(賀茂別雷神社 米山 裕貴)



近畿地区報告

皇室関連施設清掃奉仕

恒例となっている神道青年近畿地区連絡協議会指定事業の皇室関連施設清掃奉仕が、九月二十七日に京都御所において、参加会員三十名にて実施されました。

当日は曇天となり、夏の気配の残る暑さの厳しい気候となりました。参加会員はそれぞれ鎌や熊手を手に皇后常御殿の前に広がった草を抜き取る作業を行い、御大典を前に少しでも清浄になるようにと、各自が熱心に草引きに打ち込みました。正午を迎え待機所にて休憩ののち、宮内庁京都事務所職員の方のご厚意により京都御所を案内していただきました。現在では広く一般に開放されておりますが、その中でも通常では入ることのできない場所を多くご案内いただき、貴重な話を伺うことができました。御常御殿前にある整備のなされた美しい庭や、紫宸殿のそばまで連れていただいたのには、感激いたしました。



再度待機所にて着替えをすませた後、生寫紀之会長より謝辞が述べられ、清掃奉仕を無事に終えることができました。

その後、午後四時半よりホテル平安の森京都にて懇親会が開催され、他府県の会員や氏子青年連合会の皆様と親睦を深めました。

最後に、清掃奉仕の準備や対応をお引き受けいただきました宮内庁京都事務所の方々に、厚く御礼申し上げます。

(北野天満宮 上寫将司)



禊・鎮魂練成研修会



去る七月九日、十日、神道青年会近畿地区連絡協議会の事業である「禊・鎮魂練成研修会」が奈良県神道青年会の担当により、奈良県天理市の石上神宮にて開催された。今回の研修会には近畿各府県の神道青年会より十九名の会員が参加し、当会からは五名が参加した。研修会の開催にあたり、正式参拝を終えたのち禊・鎮魂行法の指導を受け、禊場にて禊業法を、拝殿にて鎮魂行法を、九日の夕刻と十日の早朝にそれぞれ修めた。

九日の夕刻に多少の雨がぱらついたものの、天候にも恵まれ、二日ともしっかりと禊・鎮魂行法を執り行う事が出来た。今回、石上神宮権禰宜の道上昌幸先生に指導していただいた「呼吸法の大切さ」これは普段の生活の中でも活かせることなので忘れないようにしたいと思った。

九日の夜に行われた勉強会では、一般社団法人 檀原青年会議所委員の米田昌功先生と森脇大統先生より「SDGs(持続可能な開発目標)」についてのご講義を賜った。

この二日間を通して、禊・鎮魂行法の体験だけでなく普段交流の



少ない他府県の会員とも交流する事が出来、参加者一同にとつて非常に有意義な研修となった。

(伏見稻荷大社 今村 順輝)



設立二十五周年記念大会 並びに令和元年度定例総会

六月十日、奈良ロイヤルホテルに於いて神道青年近畿地区協議会「設立二十五周年記念大会」並びに「令和元年度定例総会」が開催された。

定例総会に先立ち、「国家安寧祈願祭」が斎行された。

田中国男当会会長が齋主を勤め、平成の御代の様々な震災を振り返り、また今後に予想される災害を懸念しながら、設立二十五周年の節目に「近畿はひとつ」の合言葉のもと心を一つに祈りの力を結集し、新たな御代の更なる弥栄と国安らかならんことが祈願された。



定例総会では、奈良県 越智康介会長が議長を勤め、まず平成三十年度会務報告、歳入歳出決算、監査報告が承認された。その後、令和元年度の役員並びに相談役が承認され、会長に就任した和歌山県 上野潤出向理事が「活動基本方針及び事業計画、歳入歳出予算」を発表し、満場一致で承認された。基本方針の中では、令和の御代を言祝ぎ、新しい国造りに貢献するため世界平和を祈る木としての「榊」の植樹や、発生が予想される大震災への対策、また従来通りに充実した事業委員会の活動などが示された。最



後に次期当番府県の矢頭英征滋賀県会長が、平成三十年度の当番府県であった奈良県同会の労をねぎらい、次期当番府県としての抱負を語った。

次に記念式典が行われた。神宮遥拝、国歌斉唱などのち、多数のご来賓を代表していただいて御三方よりご祝辞をいただいた。

奈良県神社庁庁長 樋口俊夫様からは、新しい御代を迎え改めて清らかな道徳心を取り戻すべきであること、神道青年全国協議会会長 金田祐季様からは、イデオロギーの対立が不明瞭になつてきた昨今では、草の根の活動が重要であること、神道青年近畿地区連絡協議会顧問 加藤芳哉様からは、当会の前身組織であつた「近畿地区ブロック連絡会」についてのお言葉を頂戴した。最後に聖寿の万歳を言祝ぎ閉式となつた。

次に祝宴では、まず初めに大神神社の氏子青年会会員からなる「大美和」の和太鼓の演奏が晴れやかに行われ、会場は一気に盛り上がりを見せた。地域や世代をこえた交流が交わされ、盛会のうちに閉会した。

(大原野神社 杉原淳一)



神道青年近畿地区連絡協議会 第一回連絡会並びに研修会



去る九月六日、びわ湖プリンスホテルに於いて神道青年近畿地区連絡協議会第一回連絡会並びに研修会が開催された。

連絡会では、各委員会、各単位会の報告がなされ、滞りなく終了した。

休憩を挟み、同会場で研修会が行われ、講師に藤井英次先生をお招きし、「私の目指す道」と題したご講演を賜った。藤井先生は滋賀県でラーメン店を営んでおり、十年ほど前にはテレビ番組で名を馳せたラーメン業界の第一人者である。内容は滋賀県神道青年会矢頭会長との対談形式の講話で、藤井先生の壮絶な過去の話から、今の地位までどのように上り詰めたのか、また、我々にとつても大事なことで、「育成」において気をつけていること、業界外からみた神社界の印象、神社に実践して欲しいことなど、非常に聴きごたえのある対談だった。

研修会の後は同会場で、懇親会が開催された。ご来賓として、ご講演を賜った藤井英次様、滋賀県神道青年OB会 副会長 文屋久明様、参議院議員 有村治子ご代理 秘書 柴田翔子様、神道青年近畿地区

連絡協議会 参与 丘一隆様、同参与 岡田能正様、同参与 井口盛司様、同参与 谷雅彦様、同参与 佐合井秀彦様、にご出席賜り、諸先輩方との歓談を交え、非常に有意義な懇親会となり、名残惜しくも盛況の中閉幕となった。

(石清水八幡宮 宮田 雄生)



中央報告

天下大祓

「会長どうしますか？外で斎行しますか？それとも拝殿で斎行しますか？」

この言葉に斎主であり、責任者である私は曇り空を見上げながら祭典奉仕十分前迄、祭典場所決定に二の足を踏んでいた。

しかし、決めなければならない。そのような時に、ある参列会員から

「外で出来ませよ、雨はもちます！」という私の背中を押してくれる言葉が飛んできた。

その事に加え、取材陣の方々の「外の方が映えるのでは…」という目に見えぬ何かの圧力が私を決心させた。

「外で斎行しましょう！」と、私が言ったその時、天の恵み(雨)が数粒落ちてきた。「大神様はどこまで私を悩ませるのか？」と、心の底から思ったが、結局、雨は祭典中落ちて来なかった。

杜の木々が緑麗しく、時折爽や





かな風が通り抜ける祝園神社(京都府精華町鎮座)にて会員十一名が令和元年八月三十日正午「天下大祓」をご奉仕させて頂いた。

さて、神社が鎮座する地は古代に於いて五畿七道(日本全国)に通じる官道が集中している、まさに「天下大祓」に相応しい地である。この地を祓う事により日本の国土全体が祓われ、清らかで麗しい国土となる。

また点定により選ばれし主基田(京都府南丹市)も同時に祓われる。このように、国の大事に関わる祭礼奉仕に祭員は清らかな心と誇りを持ってご奉仕させて頂いた。

ご縁があり、この日本国に生まれ、そして然るべき時に大嘗祭に関わる祭典にご奉仕出来ることは幸せな事である。今回祭典奉仕をした会員十一名は、何事にも代えがたい時間を共有出来たのではないかと思います。

なお、祭典後は場所を移し、屋内で直会をさせて頂いたが、もっていた雨が屋内に入って直ぐに大雨と



なつて降り出した。大神様も粋な計らいをしてくれるものだなあと感謝をしつつ皆は喉を潤した。

(大將軍八神社生寫紀之)

第二十五回全國戰歿學徒追悼祭



毎年十月二十一日に行われているこの慰霊祭ですが今年十月二十二日に天皇陛下「即位の礼」が行われ十月三十日の齋行となりました。第二十五回という節目を迎えた全国戦没学徒慰霊祭ですが今年

は慰霊祭に先立ち十時十五分より近畿地区連絡協議会 上野潤会長、兵庫県神道青年会 廣瀬元正会長により世界平和の象徴とされる榎の木の新樹祭が神道青年全国協議会 金田祐季会長を始め役員の皆様ご参列のもと執り行われました。

そして、十一時からは近畿地区連絡協議会 上野潤会長を始め、祭員には全国から集まった青年神職同志十二名が奉仕致しました。

この全国戦歿学徒追悼祭は昭和十八年、明治神宮外苑で行われた「出陣学徒壮行会」の日にちなんで行われており、今回は近畿圏はもとより全国から八十名近い参列者がありました。

追悼祭では、海上自衛隊徳島教育航空群徳島航空基地隊喇叭隊による喇叭吹奏、靖国神社仕女二名の奉仕による神楽「みたま慰めの二人舞」の神楽奉奏、福田寺住職による般若心経の読経、キリストの幕屋の皆さんによる賛美歌奉唱など宗教の垣根を越えての素晴らしい追悼祭となりました。

全国戦歿学徒を追悼する會の永田秀一會長のお言葉にもありましたがこの慰霊祭が始まるとどこからともなく鳶が飛来し、慰霊



塔の上を旋回することとしたがこの日も真っ青な空に数羽の鳶が旋回しており、若くして戦場に赴かれた学徒の英霊に感謝と追悼の念を新たに感じさせて戴く日となりました。

(護王神社 高田真之介)



夏期セミナー (神道青年全国協議会主催)

去る八月二十七日・二十八日の二日間に亘り、神社本庁に於いて「新しい御代の教化活動」を主題として神道青年全国協議会令和元年度の夏期セミナーが開催され、全国各地より約百五十名の参加があり、京都からは生寫會長以下四名が参加した。

本セミナーは御讓位に伴い、我々青年神職が新しい時代に適応した教化活動を展開していくために素地を養い神道学の基礎を固めることとは言うまでもなく、同時に新しい制度、思想、文化などを学び、教養を深めるべくして開催された。

第一講として國學院大學研究開発推進センター助教である高野裕基先生から「踐祚大嘗祭の基礎知識」と題してご講演を賜った。光格天皇以来二百二年ぶりとなる御讓位に対して、基礎知識としてどのような流れで大嘗祭が斎行されていくのか歴史を踏まえて説明がなされた。大嘗祭は皇位継承の在り方や日本文化の根底にある稲作と密接に関わる祭祀であり、日本の建国より連綿と継承されてきた万世一系の皇室の歴史に対して改めて感謝し、皇室が今後継承されるにあたり我々の教化活動を更に深めなければならないと使命を感じさせられた。また、御代替と日本国憲法、皇室典範についても触れられ、現在の日本国憲法の在り方に対して考えさせられた。

第二講として国際政治学者の三浦瑠麗先生より「言論界における左派・右派の現状とその対立を超えてゆく方法」と題してご講演を賜った。現在の日本は戦後レジーム(政治体制)に対する左派・右派の

主張により対立し、前に進めない状況である。講義に於いて双方の主張を基に現在の言論界はどのような状況であるか説明がなされた。考え方が多様化している現在の世の中に於いて自分自身の考えを持つために様々な情報を取り入れ、正しい判断をすることが大切だと感じた。

第三講として外務省 国際協力局 地域規模課題総括課の春田博己先生より「SDGsの概要と政府の取組」と題してご講演を賜った。SDGsとは平成二十七年に国連サミットに於いて採決されたものであり、「誰一人取り残さない」で多様性と包摂性のある社会を実現させる為に十七の持続可能な開発目標を掲げたものであるとの説明を受けた。既に取り組みに参加している企業が増えてきており、全国に周知をして十年後までに目標を達成していくとの取組が政府によつて進められていることが説明された。神社界に於いても教化活動に結びつけてどの様な活動をしていけるのかと考えていきたいと思つた。

新しい御代をむかえて初めての本夏期セミナーが開催され、我々青年神職が今後どの様な教化活動を行うのか考え、研鑽を深めていきたいと強く思つた。

(石清水八幡宮 林 秀明)



紹介

- ①氏名 ②生年月日 ③出身地
④奉職先神社 ⑤あなたにとって一番大切なもの



- ① 太刀掛 潤平
② 平成九年一月二十七日
③ 広島県
④ 貴船神社
⑤ 自由な時間



- ① 大須賀 千晶
② 平成八年七月二十一日
③ 愛知県
④ 賀茂御祖神社
⑤ 神社、家族



- ① 山口 董子
② 平成五年九月二日
③ 京都府
④ 賀茂御祖神社
⑤ 正直な心



- ① 武田 雅人
② 平成五年七月二十二日
③ 千葉県
④ 賀茂御祖神社
⑤ 「気づく」こと



- ① 川崎 慎太郎
② 平成八年十一月二十七日
③ 京都府
④ 城南宮
⑤ 純粋な心



- ① 東山 詩奈
② 平成八年九月十三日
③ 兵庫県
④ 車折神社
⑤ 純真な心



- ① 櫻井 孝嘉
② 昭和五十八年一月二十四日
③ 京都府
④ 京都府神社庁
⑤ 浄明正直



- ① 古市 竣
② 平成二年六月十八日
③ 埼玉県
④ 貴船神社
⑤ 自分の時間

新 入 会 員



① 白川 凌
 ② 平成八年十月八日
 ③ 香川県
 ④ 伏見稲荷大社
 ⑤ 自分に関わってくれた人
 たちとの繋がりが



① 永澤 伯俊
 ② 平成八年七月三十一日
 ③ 秋田県
 ④ 伏見稲荷大社
 ⑤ 何事にも愚直に取り組む
 こと



① 今村 順輝
 ② 平成八年六月二十六日
 ③ 長野県
 ④ 伏見稲荷大社
 ⑤ 命



① 遠藤 勝
 ② 平成八年八月三十日
 ③ 神奈川県
 ④ 平野神社
 ⑤ 中・高・大学と関わってくだ
 かった人の御縁と野球観戦
 (神奈川の人の縁が多いので、
 これから京都でも作れたら
 いいなと思っています)



① 神尾 尚宏
 ② 平成九年三月一日
 ③ 京都府
 ④ 八坂神社
 ⑤ 睡眠



① 逸見 純一
 ② 平成五年十一月十三日
 ③ 徳島県
 ④ 八坂神社
 ⑤ 食へること



① 進藤 恵太郎
 ② 平成九年二月二十二日
 ③ 大分県
 ④ 松尾大社
 ⑤ 愛



① 久野 孝弘
 ② 平成八年十二月十四日
 ③ 京都府
 ④ 平安神宮
 ⑤ 衣・食・住

事務局・会計局各次長紹介

当会には、会務運営を円滑に進めるために事務局並びに会計局が設置されています。それぞれの次長は局長からの指名により決まり、局長の補佐をする役割を担っています。



事務局次長
芹口明憲(平安神宮)
この度、事務局次長を仰せつかりました平安神宮出仕の芹口明憲と申します。奉職してから今年で四年目とまだ京都府神道青年会に入会してからまだ日が浅く、ご迷惑をおかけすることも多々あるとは思いますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



会計局次長
田中明仁(賀茂御祖神社)
生寫会長や役員の皆さまのお役に立てるよう微力ながら努めて参ります。宜しくお願ひ申し上げます。

編集後記

新しい広報委員会より『山紫水明』第一三八号を届けさせていただきます。

表紙には、八月三十日に齋行された御大典奉祝事業「天下大祓」の写真を使わせていただきました。

これは大嘗祭を迎えるにあつての諸儀式の一つがない齋行と国民の安寧を祈念して行なう祓であります。

この『山紫水明』が皆様の手に届くころには、諸祭無事齋行されていることを願ひ、この写真にいたしました。

編集作業をさせていただくにつけ、先輩方の苦勞と、それを乗り越えてこられた偉大さをひしひしと感じております。新広報委員会も負けないように精一杯尽力していこうと思ひます。

記事原稿の執筆は、会員各位にご依頼させていただいております。今後とも、どうか皆さまご協力下さいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

また、広報委員会では当会の活動を皆さまに知ってもらうべく、ホームページやSNSを更新しております。ぜひ一度ご覧下さい。
〈広報委員会〉

『山紫水明』第一三八号

題字 頼新先生
編集 広報委員会
発行所 京都府神道青年会
発行日 令和元年十一月三十日
印刷 株式会社ユニティ

